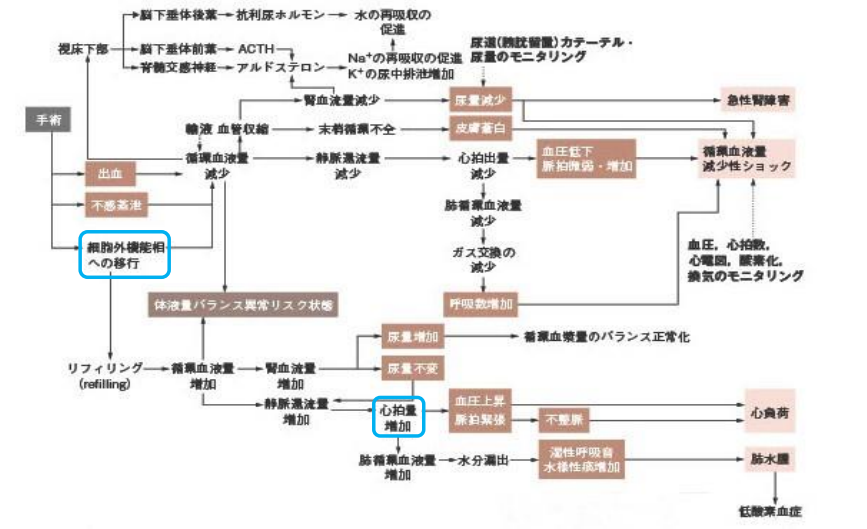
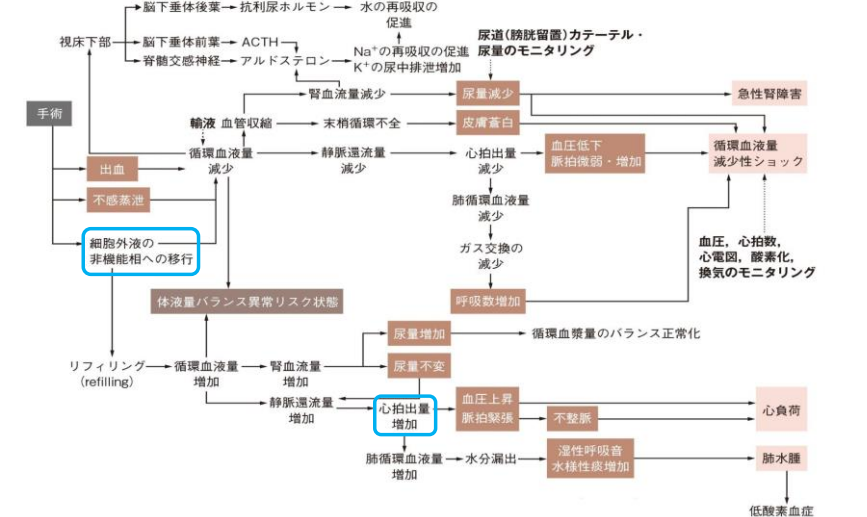


『周術期の臨床判断を磨く I 手術侵襲と生体反応から導く看護 第2版』 正誤表

このたびは『周術期の臨床判断を磨く I 手術侵襲と生体反応から導く看護 第2版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。第1刷(2023年2月1日発行)、第2刷(2023年5月1日発行)、第3刷(2023年12月15日発行)におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2023年8月16日作成, 2023年12月8日更新

刷数	訂正箇所	誤	掲載																																																												
1, 2	p.4 図1-2 侵襲に対する生体反応の発動機序	下記図を参照 図 1-2 侵襲に対する生体反応の発動機序	2023/8/16																																																												
		正																																																													
		下記図を参照 図 1-2 侵襲に対する生体反応の発動機序																																																													
1, 2	p.7 本文1行目	誤	2023/8/16																																																												
		ERAS® (enhanced recover after surgery)																																																													
		正																																																													
		ERAS® (enhanced recovery after surgery)																																																													
3	p.28 表2-6 目標	誤	2023/12/8																																																												
		4. INPUT (輸液・輸血量) , 代謝水とOUTPUT (出血, 尿量, 不感蒸泄など) のバランスが保たれる																																																													
		正																																																													
		4. INPUT (輸液・輸血量, 代謝水) とOUTPUT (出血, 尿量, 不感蒸泄など) のバランスが保たれる																																																													
1, 2	p.29 表2-8 ショック指数と出血性ショックの分類 (Advanced Trauma Life Support 分類)	誤	2023/8/16																																																												
		下記表を参照 表 2-8 ショック指数と出血性ショックの分類 (Advanced Trauma Life Support 分類) <table><tr><th></th><th>Class I</th><th>Class II 軽度</th><th>Class III 中等度</th><th>Class IV 重症</th></tr><tr><td>ショック指数^{*1}</td><td>0.5~1.0</td><td>1.0~1.5</td><td>1.5~2.0</td><td>2.0 <</td></tr><tr><td>出血量 (mL)</td><td>< 750</td><td>750~1,500</td><td>1,500~2,000</td><td>2,000 <</td></tr><tr><td>出血量 (%循環血容量)</td><td>< 15</td><td>15~30</td><td>31~40</td><td>> 40</td></tr><tr><td>脈拍数 (/分)</td><td>< 100</td><td>100~120</td><td>120~140</td><td>> 140</td></tr><tr><td>収縮期血圧</td><td>不変</td><td>不変</td><td>低下</td><td>低下</td></tr><tr><td>拡張期血圧</td><td>不変</td><td>上昇</td><td>低下</td><td>低下</td></tr><tr><td>尿量</td><td>正常~やや増</td><td>減少</td><td>減少</td><td>減少</td></tr><tr><td>呼吸数 (/分)</td><td>14~20</td><td>20~30</td><td>30~40</td><td>> 40 か無呼吸</td></tr><tr><td>尿量 (mL/時間)</td><td>> 30</td><td>20~30</td><td>5~15</td><td>無尿</td></tr><tr><td>意識レベル</td><td>軽度の不安</td><td>不穏状態</td><td>不穏から昏迷</td><td>半昏迷・昏迷</td></tr><tr><td>皮膚所見</td><td>顔色やや不良</td><td>蒼白, 末梢軽度冷感, 毛細血管再充満時間延長</td><td>四肢冷感, 湿潤, チアノーゼ</td><td>体温低下, チアノーゼ</td></tr></table> ^{*1} ショック指数=心拍数÷収縮期血圧 例 心拍数 120, 収縮期血圧 90 の場合 120 ÷ 90 = 1.3 (坂野理: 第3章ショック, 北野正剛, 坂井義治(監修): 標準外科学 第16版, p.21, 医学書院, 2022より一部改変)		Class I	Class II 軽度	Class III 中等度	Class IV 重症	ショック指数 ^{*1}	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0 <	出血量 (mL)	< 750	750~1,500	1,500~2,000	2,000 <	出血量 (%循環血容量)	< 15	15~30	31~40	> 40	脈拍数 (/分)	< 100	100~120	120~140	> 140	収縮期血圧	不変	不変	低下	低下	拡張期血圧	不変	上昇	低下	低下	尿量	正常~やや増	減少	減少	減少	呼吸数 (/分)	14~20	20~30	30~40	> 40 か無呼吸	尿量 (mL/時間)	> 30	20~30	5~15	無尿	意識レベル	軽度の不安	不穏状態	不穏から昏迷	半昏迷・昏迷	皮膚所見	顔色やや不良	蒼白, 末梢軽度冷感, 毛細血管再充満時間延長	四肢冷感, 湿潤, チアノーゼ	体温低下, チアノーゼ	2023/8/16
	Class I	Class II 軽度	Class III 中等度	Class IV 重症																																																											
ショック指数 ^{*1}	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0 <																																																											
出血量 (mL)	< 750	750~1,500	1,500~2,000	2,000 <																																																											
出血量 (%循環血容量)	< 15	15~30	31~40	> 40																																																											
脈拍数 (/分)	< 100	100~120	120~140	> 140																																																											
収縮期血圧	不変	不変	低下	低下																																																											
拡張期血圧	不変	上昇	低下	低下																																																											
尿量	正常~やや増	減少	減少	減少																																																											
呼吸数 (/分)	14~20	20~30	30~40	> 40 か無呼吸																																																											
尿量 (mL/時間)	> 30	20~30	5~15	無尿																																																											
意識レベル	軽度の不安	不穏状態	不穏から昏迷	半昏迷・昏迷																																																											
皮膚所見	顔色やや不良	蒼白, 末梢軽度冷感, 毛細血管再充満時間延長	四肢冷感, 湿潤, チアノーゼ	体温低下, チアノーゼ																																																											
		正																																																													
		下記表を参照 表 2-8 ショック指数と出血性ショックの分類 (Advanced Trauma Life Support 分類) <table><tr><th></th><th>Class I</th><th>Class II 軽度</th><th>Class III 中等度</th><th>Class IV 重症</th></tr><tr><td>ショック指数^{*1}</td><td>0.5~1.0</td><td>1.0~1.5</td><td>1.5~2.0</td><td>2.0 <</td></tr><tr><td>出血量 (mL)</td><td>< 750</td><td>750~1,500</td><td>1,500~2,000</td><td>2,000 <</td></tr><tr><td>出血量 (%循環血容量)</td><td>< 15</td><td>15~30</td><td>31~40</td><td>> 40</td></tr><tr><td>脈拍数 (/分)</td><td>< 100</td><td>100~120</td><td>120~140</td><td>> 140</td></tr><tr><td>収縮期血圧</td><td>不変</td><td>不変</td><td>低下</td><td>低下</td></tr><tr><td>拡張期血圧</td><td>不変</td><td>上昇</td><td>低下</td><td>低下</td></tr><tr><td>尿量</td><td>正常~やや増</td><td>減少</td><td>減少</td><td>減少</td></tr><tr><td>呼吸数 (/分)</td><td>14~20</td><td>20~30</td><td>30~40</td><td>> 40 か無呼吸</td></tr><tr><td>尿量 (mL/時間)</td><td>> 30</td><td>20~30</td><td>5~15</td><td>無尿</td></tr><tr><td>意識レベル</td><td>軽度の不安</td><td>不穏状態</td><td>不穏から昏迷</td><td>半昏迷・昏迷</td></tr><tr><td>皮膚所見</td><td>顔色やや不良</td><td>蒼白, 末梢軽度冷感, 毛細血管再充満時間延長</td><td>四肢冷感, 湿潤, チアノーゼ</td><td>体温低下, チアノーゼ</td></tr></table> ^{*1} ショック指数=心拍数÷収縮期血圧 例 心拍数 120, 収縮期血圧 90 の場合 120 ÷ 90 = 1.3 (坂野理: 第3章ショック, 北野正剛, 坂井義治(監修): 標準外科学 第16版, p.21, 医学書院, 2022より一部改変)		Class I	Class II 軽度	Class III 中等度	Class IV 重症	ショック指数 ^{*1}	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0 <	出血量 (mL)	< 750	750~1,500	1,500~2,000	2,000 <	出血量 (%循環血容量)	< 15	15~30	31~40	> 40	脈拍数 (/分)	< 100	100~120	120~140	> 140	収縮期血圧	不変	不変	低下	低下	拡張期血圧	不変	上昇	低下	低下	尿量	正常~やや増	減少	減少	減少	呼吸数 (/分)	14~20	20~30	30~40	> 40 か無呼吸	尿量 (mL/時間)	> 30	20~30	5~15	無尿	意識レベル	軽度の不安	不穏状態	不穏から昏迷	半昏迷・昏迷	皮膚所見	顔色やや不良	蒼白, 末梢軽度冷感, 毛細血管再充満時間延長	四肢冷感, 湿潤, チアノーゼ	体温低下, チアノーゼ	
	Class I	Class II 軽度	Class III 中等度	Class IV 重症																																																											
ショック指数 ^{*1}	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0 <																																																											
出血量 (mL)	< 750	750~1,500	1,500~2,000	2,000 <																																																											
出血量 (%循環血容量)	< 15	15~30	31~40	> 40																																																											
脈拍数 (/分)	< 100	100~120	120~140	> 140																																																											
収縮期血圧	不変	不変	低下	低下																																																											
拡張期血圧	不変	上昇	低下	低下																																																											
尿量	正常~やや増	減少	減少	減少																																																											
呼吸数 (/分)	14~20	20~30	30~40	> 40 か無呼吸																																																											
尿量 (mL/時間)	> 30	20~30	5~15	無尿																																																											
意識レベル	軽度の不安	不穏状態	不穏から昏迷	半昏迷・昏迷																																																											
皮膚所見	顔色やや不良	蒼白, 末梢軽度冷感, 毛細血管再充満時間延長	四肢冷感, 湿潤, チアノーゼ	体温低下, チアノーゼ																																																											

刷数	訂正箇所	誤	掲載
1, 2	p.35 事例C「手術直後の経過から術後第3病日」5行目	48/76~80 mmHg 正 148/76~80 mmHg	2023/8/16
1, 2	p.96 表5-3 表下	誤 侵襲因子は、術後は術式・体温上昇のうち高い値を用いる。 正 ストレス係数は、術後は術式・体温上昇のうち高い値を用いる。	2023/8/16
1, 2	p.171 本文6-7行目	誤 ストレスの多い事件における問題解決決定要因 正 ストレスの多い出来事における問題解決決定要因	2023/8/16
1, 2	p.194 図10-1 全身麻酔・開腹術を受ける患者の生体反応、看護診断、治療・看護ケア① (上部)	誤 下記図を参照  正 下記図を参照 	2023/8/16